

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

15

銀英社の創立メンバーに参加



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

**おやしマンガ同人誌**

**つれづれ草**

# マンガ展

篠原幸雄からやましたゆきおへ

## マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄 (漫才少年ジャンプの連載「男のつれづれ草」)

**日時：10月20日(金)～10月29日(日)**  
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

**会場：森下文化センター1F展示ロビー**  
**お問合せ：森下文化センター**  
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





# 15、銀英社の創立メンバーに参加

## デザイナーとして次のステージに

月刊誌OUTの宇宙戦艦ヤマト特集で、アニメブームの発火点を作ったメンバー達が大学を卒業して、本格的な企画編集会社を設立するために、「スタジオオオス」を発展的解消することになりました。

あさの先生はこれを機会にメンバーから外れ、私はそのメンバーと一緒に新会社にデザイナーとして参加することになりました。

当時の商法で、株式会社設立のために発起人が9人必要とのことで、特撮マニア、アニメマニア、イラストレーター、セル画家、編集者、デザイ

ナーなど、それぞれ特技を持った若者のスペシャリストが9人集結しました。社名は9人だから「プランナー9（サイボーグ009のイマージュ）」との意見も出たのですが、面白くないと否決されました。大企業に似ている名前がいいね。と集英社に似せて「銀英者」にしよつと決まりました。

1979年4月、水道橋駅と九段下駅の間あたりにある小さなビルの最上階に十坪ほどの小さな事務所を借り、株式会社銀英社はスタートしました。一年も経たずにこの事務所では手狭になり、水道橋駅のお茶の水駅側の改札口を出てすぐのビルに、3倍程の広さの部屋を借り、引越しました。

創立時の銀英社は、特撮チームは「宇宙船」という特撮専門誌を創刊、「K」さんの企画編集で「ふぁんろーど」という全てのマニアのためのファン雑誌を創刊、サンライズの「ガンダム記録全集」

の企画編集、アニメ関係のムックや写真集などの編集、徳間書店のテレビランドの表紙やカラーページのデザインなど、私のデザイナーとしての仕事は切れることはありませんでした。

また、私は関わりませんでした、テレビアニメ「宇宙空母ブルーノア」企画設定も担当してました。



宇宙船 朝日ソノラマ発行



ファンロード ラポート発行



機動戦士ガンダム記録全集 日本サンライズ発行

事務所引越のタイミングで、初期メンバーの9人から3人抜け、6人の新体制で新事務所での銀英社が再スタートになりました。

前項で書きましたが、小林企画からの依頼で引き受けたマンガの書下し単行本、集英社発行のまんが入門百科「鳥のなかま」は、この時期に描いた物です。メインの仕事をデザインに変えた後の仕事で、デザイナーとマンガ家の二刀流は無理と思われ知らされて、これがプロのマンガ家として最後の仕事になりました。

文・新つれづれ草第7号掲載「つれづれインタビューマンガびと」より抜粋加筆